



【先に天に召された方の切ない願い】

説教者:鄭南哲牧師

(サブ:人生の真の成功者)

ルカの福音書16章19-31節・暗唱聖句:ヨハネの福音書6章40・47節 (Rev.Jung nam-chul)

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ 去った一週間もみんなお元気でしたか。始まった GW が始まりましたが、ねがわくは、今年もここまで精一杯の頑張って働きや頑張って新学期の学校生活をやって来たみなさんに、このGW期間中が良いリフレッシュと休息と再充電の時となりますように、今週の全歩みが守られ、神の平安が益々豊かにありますようにお祈り致します！

<1. 死から遠ざかっている時代>

現代は、身近に死を考えることができなくなった時代です。死に関するニュースは毎日あふれて届いているのに、自分では死を実感できない、時代を生きているように思います。身近に死を体験していないからです。日本では戦後間もない1950年当時、日本人の95%は自宅での誕生と終焉(しゅうえん)の場所だったのです。現代では、ほぼ100%病院で生まれ、約70%以上が病院で死んでいます。とういのは、家庭が生命の始まりと終わりの場所ではなくなっています。とりわけ家族でともに死を看取るという貴重な経験が家庭の中でますます失われつつあります。そのため、家族への切ない思いとともに、人生はいつかこの世を去る時が待っていることをだれかが教えてくれなくても、自然に身につき、自身の人生をよく振り返りながら、人はより謙虚に生きて来たのではないかと思わされます。この地上での残された自身の人生のどう生きるべきなのか知恵のある人生を歩もうとしたので、昔の世代の方々は、今日のように高い学力も持ってなかったけれども、AI やインターネットやスマートフォンですぐ検索して多くの情報や知識は手に入れても、以前の方々がより賢く人生を歩んで来たのではないかと思います。

なので、聖書の中にも伝道者の書 7章2節(Ecclesiastes)ではこう書かれています。「祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者が、それを心に留めるようになるからだ。」「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠への思いを与えられた。しかし、人は、神が行なわれるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。」-伝道者の書3章11節-

<2. 二種類の人の人生>

この世には二種類の人の人生があると思います。自分自身が金持ちだと思っている人がいれば、そうではないと思う人がいます。ほとんどの人々は当然金持ちになりたいと願っていて、だれもこじきの生活は金銭的に厳しい生活を望む人はいないと思います。それで、ある方は金持ちになることを人生の目標として必死に働き生きている方も多くいるでしょう。ご存じのように金持ちといえば、お金や経済的に余裕があり、物質と富と栄華をきわめ、人を指します。

しかし、実際には富をきわめなくても、そんなに金銭的に余裕がなくても、まるで金持ちのように余裕と感謝をもって満足しながら生きる人もいれば、お金はたくさんあるのにも関わらず、心の余裕もなく、金という鎖に縛れて満足できずもっと欲しい、もっと欲しいという切りのない欲張りで苦しみ、まるで物乞いを願いつつ、こじきのように生きる人もいます。くらしぶりは金持ちみたいですが、こじきのような人がいれば、くらしぶりはこじきみたいですが、金持ちのように生きる人もいます。

結局自分がどのような心構(がまえ)でいるのかによって、2度もない、一度しか許されない貴重な人生をまるで金持ちのように生きようになるか、こじきのように生きようになるかが一つ重要ではないかと思わされます。

今日の聖書で、イエス様の大事な一つのたとえ話をもって教えて下さっている内容です。ある金持ちとこじきの話をしてくださっています。名前も知らないある金持ちの人とラザロ(意味:神の助けを頂く者)というこじきが登場します。

同時代を生きていた聖書の二人のお話です。

1. 人生の不公平(生活の違い)(本文19-21節)

今日の本文にはある金持ちはいつも紫の衣や、細布を着て、毎日ぜいたくに暮らしていました。ところがラザロというこじきは全身おできでその金持ちの門前に寝ながら金持ちの食卓から落ちる物でも頂こうとしていましたが、犬もやってきては彼のおできをなめていました。彼は肉体的に病気で、生活的にもひもじい生活をしていたのです。

同じ時代に生まれでも、一人はぜいたくに暮らせ、一人は不幸な生活を送っていることを見るとなにか不公平だなと思われるかもしれません。

2. 死の公平性 (本文 22 節)

しかし、私たちは知っておくべきことがあります！それは金持ちとして、こじきとして生きる人生はそんなに長くないということです。本文 22 節を見ると、金持ちも死んで、こじきラザロも人生を終え、死にました。金持ちはいつまでも金持ちではなく、こじきもいつまでもこじきではないことをおぼえてください。金持ちの生涯もそんなに長くなかったし、様々な面において苦しんでいたこじきもその生涯を終えました。彼らの生涯を考えると、私たちの生涯もそんなに長くないことがわかります。

私たちが生きているこの世でも似た状態を見ることができます。決してつぶされないと考えていた大企業さえむなしく倒産してしまう場合もすくなくはありません。信頼されていた銀行や会社なども合併したり、つぶれたりもします。

この世をおさめた絶対権力者たちも、英雄たちも、むなしく消え去ります。絶対あのグループ、あの人たちの人気絶好調でずっと続くだろうと思いますが、人たちの人気もいつかは落ちるでしょう。この世の人気と名声が高い、多くの人たちも長くは持たず舞台から消え去ることを私たちはしばしば見て来ました。つまり、我々が少しでも冷静に考えて見ると、この世で永遠に続くものはないことに我々が悟ることが出来ます。

愛する信仰の家族のみなさん！このような世間のニュースなどを見ると人間があれだけ必死に願い求めている富貴功名は決してそれほど長くもたないという事を悟らせませんか。そしてこの世の苦しみもしばらくの間だけです。人それぞれ時間的に若干の差があるだけで、私たちはいつか必ずこの世をさる時が来るでしょう。それに例外はだれもありません。

ここに100年後残っている人は果たして何人ぐらいいると思いますか。だからある意味で我々の人生はみんな死が宣告されている時限部(じげんぶ)の人生であります。

この世に来る時は順番に来たとしても、この世を終えるのはだれが、いつこの世を消え去るかは全くだれもわかりません。「ダビデの死ぬ日が近づいた時、彼は息子ソロモンに次のように言いつけた。「私は世のすべての人の行く道を行こうとしている。(第一列王記 2 章 1 節-2 節)」、「そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように。」(ヘブル人への手紙 9 章 27 節)

今日の本文を通して変わらない、同じ事実が一つあります。

それは、**私たちも遠からずこの世を去るという事実です。**今日の御言葉を見るとぜいたくに暮らしていた金持ちも、苦しんでいたこじきもついに死にました。ここで私たちは死の公平性を見ることができます。

神の御前では金持ちも、こじきもみな同じ存在です。神様が私たちをお召しになるとだれもことわる事ができず、この世を去るしかほかにありません。健康な者も、病気の者も、おさない子供も、お年よりも、金持ちも、こじきも、だれであれこの世での人生の終わりはかならず来ます。

3. 死で人のすべてが終わりではありません！(本文23-26節)

しかしもっと大切な事があります！すなわち、すべてが死ぬことで終わることがなく、この世の時より大事な世界がまっているという事です。金持ちも、こじきも死んで、二人ともどこかに連れられて行きましたが、全然違う所でした。

この世を終えた後は来世(らいせ)があるという事です。もし70年、80年ぐらい生きるのが私たちの生涯のすべてであるならば、それでおしまいとなるというなら、悔しくて耐えられない事がいっぱいあると思います。やりたいことも十分やれず、ほしい物を全部手にいれられず、十分楽しめないまま私たちの命がなくなるなら、どうなるでしょうか。

しかし私たちは悔しがる必要も、落胆する必要もありません。なぜならしばらくの間のこの世での生活が私たちの生活すべてではなく、永遠にまであるほかの場所が私たちを待っているからです。それが本当に事実であれば、しばらくの間でのこの世より永遠に生きるむこうでの生活を楽しみにして準備する方が賢い考え、人生の生き方かも知れません。

さて、どういう世界が待っているのでしょうか。

まず金持ちが行ったところはハデスというところでした。つまり地獄です。聖書によるとあそこは炎(ほのお)の中でずっと身を悶(もだ)えて苦しむ所です。そして一度そこに入ると二度と出て来れないところ。そこからは一切天国に移る事も、変更もできません。そこは蛆虫(うじむし)もつきの事がなく、火は消えることがないところなのです(マルコ 9:48-49「ゲヘナでは、彼らを食らううじ虫が尽きることがなく、日も消えることはありません。人はみな、火によって塩気をつけられます。」)

ほかのもう一つのところ、こじきが行ったところは天国でした。新約聖書の黙示録21章を見るとそこは栄と喜びに満ちたところ。道の大通りは透き通った純金であり、十二の真珠の門があり、あらゆる宝石でかざられていて、そこにはやみも、やまいも、涙も、悲しみも、苦しみも、死もないところ。

私たちみなはここに入らなければなりません。この天国に入る人こそ真の人生の成功者ではないでしょうか。

しばらくの間だけ、とどまるこの世で金持ちとして生きるか、こじきとして生きるかそれは大事ではありません。

結局永遠の天国で生きる人こそ祝福された者なのです。

そして天国に行かれるか、地獄に行かれるかが決まるのは私たちがこの世に生きている間である事実を今日もう一度みなさんに知っていただきたいです。

今日の聖書を見ると、自分が地獄の苦しみの中にいなければならないことを知ったその金持ちはアブラハムにこじきだったラザロを自分の父親のところにいる5人の兄弟に遣わしてくれるようお願いしています。

なぜでしたか。

本文の28節です。彼の兄弟までこんな苦しみの場所に来ないように知らせたかったのです。

しかし29-31節でアブラハムは“彼らにはモーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても彼らは聞き入れはしない。”とこたえました。これはつまり、この世には牧師や伝道者たちがいて、教会があり、神の御言葉である聖書を語り、彼らによって語られる言葉を聞き入れないのであれば、どんなに死から生き返った人がいて天国や地獄を見たといっても信じ受け入れないだろうという意味です。

聖書には天国と地獄についてよく記されていますし、教会ではよく御国に関して、地獄についてメッセージがよく語られています。実際に天国と地獄を見てきたと証する人たちもたまにいます。しかし人々は好奇心ぐらいもって聞いているだけで、刺激を受けて信じる人々は本当に少ないです。そうです。この世では神様が私たちにさずけてくださった御言葉と、さきに信仰を持っているクリスチャンたちを通して伝えられる良い知らせを聞き、受け入れる者ののみが天国に入れるのです。

ここで良い知らせと言うのは何でしょうか。

聖書では私たちすべての人間はみな罪人だと宣告しています。罪をもったままでは神の御国には入れません。我々がもっている自分の罪の問題を解決しなければなりません。それは聖書によると自分の力、努力、よい行い、お金などによってでは決してできません。神であるイエスキリストを心から信じることだと教えています。神様であられるイエス様は私たち全人類罪を赦すためにこの地に人間の御体となって来られました。そしてそれで終わりではなく三日目によみがえ

られました。天に上げられたイエスキリストは神の右の座に着かれて今も私たちのためにとりなしてくださっておられます。そしてこの世の終わりに再びこの地に裁きのために来られると聖書は約束しています。ですから聖書によるとただ私たちのやるべき事はこの世に生きている間神であるイエスキリストを心から受け入れる事です。

金持ちが地獄に落ちたのはお金がなくなったためではなく、何が道徳的なよい行いをしなかったためでもなく、ただ一つ！神様を信じなかったため罪の解決をせずに、ひたすら食べて、飲んで、あそんで、楽しむ生活をしたからです。反面こじきラザロは神様を信じ、自分の罪が解決されたので天国に入れたのです。

聖書は言っています。**新約聖書のヨハネの福音書3章16節**です。

「神は実にそのひとり子をお与えになったほどに、この世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠の命を持つためである。」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます**(使徒の働き16:31)**。」

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権(父なる神の家についてでも入れる特権)をお与えになった。**(ヨハネの福音書1章12節)**」

「見よ。わたしは、戸の外に立ってたたく。だれでも、わたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしは、彼のところにはいつ彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。**(ヨハネの黙示録3:20)**」

*信じる、受け入れるとは？心の扉の外で戸を叩いておられるイエスキリストを自身の心の扉を開いて迎え入れることでもあります！そうすると、どうなりますか。共に食事をする？共に神の家族になれる。神の子どもとなれる。なので、いつでも父なる神の家に帰るのも、入るのを出来る特権が与えられる。

「だれでも、イエスを神の御子と告白するなら、神はその人のうちにおられ、その人も神のうちにあります。」**(ヨハネの手紙第一4章15節)**そして、神の御国に入るだけではなく、キリストと共に、キリストの守り、導きの中で共に歩めるようになるのです。

「見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。」**(創世記(Genesis)28章15節)**

「見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」**(マタイの福音書 28:20 節)**

だれが永遠の金持ちですか。真の人生の勝利者でしょうか。神を信じ永遠の天国に入った者でしょう！

だれが永遠のこじきですか。神様を知らずにこの世だけを望んで、永遠の地獄におちた者です。

私たちは自分の命、お金、名誉などを自分の所有物にするのに必死よりか、むしろ永遠に残る事にもっと関心を持つべきではないかと思えます。いま私たちは自分自身の来世をきめる大切な瞬間を迎えております。今この場につどっているみなさんは決して偶然に来られたのではありません。神様ご自身がみなさん一人一人を招きいれてくださったのです。私たちは自分の人生を恨んで生きてきたかも知れません。

しかし、神様は今もみなさん一人一人を愛しておられ祝福しようと願っておられます。みなさんは愛されるため、そして祝福されるため生まれた尊い存在なのです。残りの人生を永遠の金持ちとして、永遠の成功者、永遠に祝福されるものになるためにはただイエスキリストを信じ、心に受け入れることであることを知っていただきたいです。

イエスキリストを自分の心に信じ受け入れることはとっても簡単です。今この祈りで十分です。心を開いて私の祈りについてきてください。一言ずつです。

「主イエス様！私は今あなたを必要としています！わたしのすべての罪のため、かわりに十字架で死んで下さった事を感謝します。私は今あなたを、私の罪からの救い主、人生の導き手として心の扉を開いてあなたをおむかえします。あなたを受け入れます。どうかこれからこの世で 私の人生の道のりの 最後まであなたが 守ってくださり、私を助けてください。そして、父なる神の家に入る時まで私を導いて下さい。イエス様の御名によって祈ります。アーメン！」

今イエスキリストを受け入れた人々に聖書は永遠の命を約束しています(第一ヨハネの手紙5章11-13節)。

「そのあかしとは、神が私たちに永遠の命を与えられたということ、そしてこのいのちがキリストのうちにあるということです。キリストを持つ者は命を持っており、キリストを持たない者は命を持っていません。私がキリストの名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠の命を持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」

今イエスキリストを心に招き入れたみなさんにイエスキリストはこう言われます。

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの言葉をきいて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠の命をもち、裁きにあうことがなく、死から命に移っているのです。(ヨハネの福音書5:24)」

イエスキリストを自分の人生に受け入れた方々は、今日死んでも永遠の天国に入る特権が与えられていることを信じてください。そしてキリストがみなさんの心の中にいてくださること、そしてキリストは決してあなたを捨て去ることがないことを感謝しましょう(ヘブル13:5)

これからは時間をかけて、神様の御言葉をまなび、礼拝に参加することによってイエスキリストにある豊かな人生を味わわれるように切に願います。今日もこの礼拝の場集っていらっしゃるみなさんを主の御名によって愛し、神の恵みと祝福がみなさん一人一人の上に豊かにありますように主イエスキリストの御名によって祝福します。アーメン！